

1. プロジェクトの概要

● 事業の目的

若者の県外流出や少子高齢化により、地域の労働力やデジタル人材不足が深刻化する中、データサイエンスとデジタル技術を核に、デザイン思考に基づくアプローチや学術的な知識を融合した学びを通じてデジタル革新を推進し、成長産業と地域活性化に貢献できる人材を育成するため、令和8（2026）年度に、新たに「デジタル創生学部デジタル創生学科（仮称）」（入学定員100名、収容定員400名）を創設します。

当学部では、情報科学と経済・経営的思考を併せ持つ「実践的デジタル人材」の育成を図ります。具体的には、データサイエンスを基軸とし、数学、統計学、プログラミング等のデジタル分野の基礎や成長産業分野に関する知識に加えて、AIやIoT、ドローンなどの応用分野に関する知識を身につけることのできる体系的なカリキュラムを編成するとともに、県や市町村、地元経済界などの学外諸機関との連携により、実践的知識・技術の習得を目的としたPBL型授業を実施し、地域社会・経済に貢献できる人材を育成します。

さて、学校法人四国大学は、建学の精神に基づく、私立大学としての使命を果たしていくために、また、教職員はその使命を具現化する存在であるために、「学校法人四国大学ガバナンス・コード」を規範にし、適切なガバナンスを確保して、時代の変化に対応した大学づくりを進めているところです。そしてこのような中、本学は来年令和7（2025）年に学園創立100周年を迎えます。

本プロポーザルは、四国大学デジタル創生館（仮称）等整備事業の設計業務について優先交渉権者を選定するにあたり、高い技術力及び豊富な経験等を有し、創造性や技術力・問題解決に優れた提案事業者を公募により選定し、大学の未来に向け整備を進めるために実施するものです。

なお、本業務は、文部科学省への新学部の設置認可申請はじめ関係機関への必要な手続や予算調整に整合する必要があるため、その上で所定の時期までに整備を図り、開設を目指しているものです。ご参加頂ける各位におかれては、本目的を十分に踏まえ対応頂きますようご留意願います。

● 敷地概要

地名地番	徳島市応神町古川字戎子野123-1の一部 他
敷地面積	約 94,948.62 m ²
都市計画	市街化区域
用途地域	第1種住居地域
容積率	200 %
建ぺい率	60 %
高度地区	指定なし
防火地区	指定なし

● 計画建物概要

【新設建物】 デジタル創生館（仮称） 新学部棟及びアリーナ部

- ・ 多目的広場（70m×50m程度）が敷地の中心
- ・ 新学部棟（6階建て程度）及びアリーナ部の新築
- ・ 構造：RC造、S造、または併用で可

① 新学部棟

- ・ 各種commons（共同スペース）、機械工房等、大学活動紹介スペース、植物工場、イノベーション各室、学生研究室、教員スペース、各研究室、デジタルイノベーション各室、機材庫、各種機械室、学部長室、ゼミ室、講義室、会議室、等 必要諸室及び必要装備品
- ・ 屋外テラスでの学生用commons、上部階での展望commons、関連室等

② アリーナ部

式典（入学式、卒業式等）、デジタル関係の活動、スポーツ競技用等

- ・ 1階： ピロティとして外来駐車場に（津波浸水深対応一避難所機能）
- ・ 2階： ステージ（学部棟での設置も可）
バスケットボール2面、バレーボール2面を標準とする
器具庫、会議室、トイレ、更衣室、控室等必要室
※ デジタル関係では、ドローンやモーションキャプチャー活動
- ・ 3階： 固定観覧席（800席程度、式典時の保護者対応）
- ・ 上部階： 放送・機材室、キャットウォーク、展望自習室等

【既存建物】 情報メディア館（U館：RC造4階建 3,230.32㎡）必要諸室改修

- ・ 学部再編に伴う移行期間にあるため、暫定も含め必要な改修を行う
- ・ 間仕切り壁等の設置・撤去等仕様変更が主で、構造躯体には影響ない見込み
- ・ 電気容量の増設が必要となる見込み
- ・ 詳細は、現在四国大学で検討中（12月中には決定する予定）

【その他】 新設建物に付随して、中長期を見据え南側・西側の整備構想

- ・ 東側県道からのアクセス路の整備により、玄関口としての整備の必要性提案
- ・ なお、現多目的広場の西側植栽スペース（アメリカフウ）は出来るだけ現状を活かして存置すること

● 設計監理業務

【設計業務】

① 新設建物

- ・ まずは、整備構想図（資料2）に基づき基本設計を実施
基本設計（配置、平面計画、立面計画、概算事業費）
- ・ 引き続き、実施設計（設計図書、附帯外構図、設備設計業務含む）
その他（申請用設計図書、図面、積算、その他各種申請）
- ・ 地質調査については、本学が別途専門業者に委託予定であり、調査結果を貸与する

② 既存建物

- ・ 基本設計（改修平面図、概算事業費）
- ・ 引き続き、改修設計等（積算、設備設計業務を含み、必要な手続）

【監理業務】

- 新設建物、既存建物とも、監理業務を設計業務に引き続き委託契約予定

● 設計業務期間

※ 令和7年3月初めに国への設置認可申請が必須であり、2月20日頃までには、新設建物・既存建物とも、平面図等必要図面や事業費（精度の高い概算）が必要となる。

① 新設建物

- ・ 令和7年7月末頃までに設計完了、9月頃工事入札
- ・ 令和7年10月から令和8年12月末に工事、令和9年1月～3月に什器搬入等準備
- ・ 令和9年4月から新学部棟共用開始（2年生から使用）

② 既存建物

- ・ 令和7年6月末までに設計完了、7月工事入札
- ・ 令和7年8～9月20日頃（夏休み）までに改修工事
- ・ 既存学部の在学生在が使用しながら、令和8年4月からデジタル創生学部（仮称）の1年生が使用

● 総工事費

- ・ 新設建物（(1)新学部棟、(2)アリーナ部の新設）及び(3)既存建物（改修）
(1)(2)(3) それぞれについて、所定の期日までに工事費を算出頂きたい。

● 建築士事務所の業務報酬

設計費及び監理費は、「国土交通省告示第8号（令和6年1月9日）」等に順じて算出する。

◎ 整備区域図、整備構想図

- ・ 提案書作成に際しては、次の図書を参考とされたい。
 - （資料1） 整備区域図
 - （資料2） デジタル創生館（仮称）整備構想図
 - （参考資料1） 技術提案における視覚的表現の取扱いについて
 - （参考資料2） 徳島東部都市計画図（用途地域）
 - （参考資料3） 地震・津波防災マップ（徳島市HP）
- ※参考資料については、今後追加する可能性がある。
- ・ なお、（資料2）の整備構想図は、上記「●計画建物概要」の配置等について、現在学内で議論している状況を取りまとめたものである。
- ・ 最終形ではないことを申し添え、有意義な提案であれば変更を受け付ける。

2. プロジェクトの視点

● 提案にあたって留意すべき事項

① 諸課題に対応する建築計画

- ・ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが利用しやすい施設とする。
- ・DX、GXへの対応を心がける。
太陽光発電の導入のみならず、可能な環境配慮への取り組みを検討。
- ・工事費削減や工期短縮に取り組むこと。
特にアリーナはローコストでの整備を検討。
- ・設備や躯体の維持管理及びランニングコストに配慮した計画とすること。
- ・新学部棟（講義棟）とアリーナ部の有効な遮音対策を講じること。

● 事業のコンセプト

② 学生目線、女性視点での学内整備

- ・本学は、もともと洋裁学校からスタートし、女子大学を経て現在の共学の大学となっており、学生・教職員約3,000名のうち2/3の約2,000名が女性である。このことを踏まえ、令和5（2023）年度に女性視点のキャンパス検討委員会を設け、少子化の時代にあって広く本学を選択し、快適な学園生活を送ることができるよう、学生目線ひいては女性視点で整備に取り組んでいるところである。
- ・新学部設置に際しては、文部科学省所管の大学・高専機能強化支援事業の補助金採択においても女子学生の受け入れに関する取組が評価されており、その趣旨の具現化を目指して取り組むものである。

③ 次世代を見据えた魅力の創造・地域貢献

- ・本学は令和7（2025）年に学園創立100周年を迎える。
- ・この機に、東側県道からのアクセス路の整備も進めているところ。
- ・今回の建設地は、大学の新しい玄関口として重要な位置と認識している。
- ・また、地域の方々にとっても、大学は地震等の災害発生時の避難場所として位置づけられており、徳島市等とも防災協力協定を結び、近隣町内会とは避難訓練等も合同で実施しており、機能強化が必須である。
- ・これまでの100年を礎に、これから先も更に本学の発展が期待できるよう、新学部の創設に併せて整備を進める。

● 中・長期的視点

④ 附帯の計画

- ・本整備を踏まえ、例えば建設予定地の南側（現クリーンセンターやスクールバス格納庫）及び西側（現スクールバス乗降場所）について、当該エリアの魅力が高められる取り組みについての提案。

3. 技術提案に係る課題

「2. プロジェクトの視点」を踏まえ、次のとおり課題を設定する。

- 課題1 諸課題に対応する建築計画
- ・ 持続可能な社会の実現に向けての様々な取り組みや、ユニバーサルデザインへの配慮等を行いながら、経済設計等に配慮し整備を行う考え方について
- 課題2 学生目線、女性視点での学内整備
- ・ 本学の学生や教職員にとってのキャンパスを、特に学生目線や女性の視点で整備を進め、在校生へのみならず魅力を発信するための考え方について
- 課題3 次世代を見据えた魅力の創造・地域貢献
- ・ 学園創立100周年を迎え、周辺地域の方々にも親しまれ活用される施設として、大学と周辺地区とのつながりを活かしながら整備を図ることの考え方について
- 課題4 附帯の計画
- ・ 中・長期的視点に立って、今回整備の次のステップとして取り組むべき学内周辺エリアの整備に対する考え方について